

(社) 日本建築学会  
環境振動対策事例検討 SWG 第3回議事録 (案)

A. 日 時：2009年10月26日(月) 15:00～17:00

B. 場 所：建築会館会議室

C. 出席者：川本主査 他6名

D. 配布資料

番号	内容
3-0	環境振動対策事例検討 SWG 第2回議事録
3-1	振動事例記入表(案)
3-2	建築紛争事例便覧(騒音・振動・地盤部分抜粋)
3-3	合意形成検討用資料「騒音・振動レベルのめやす」
3-4	振動評価手法及び規制手法等検討調査業務報告書
3-5	2010年度委員会活動計画案

E. 議事内容：

(1) WIB工法についての意見交換

- ・11/12のWGで竹宮先生より、WIB工法の説明を予定。
- ・鉄骨3階建てでTMDを標準仕様としている場合が多くなっているが、TMDは水平方向の効果は大きい、鉛直方向の効果は少ない。  
WIB工法は鉛直方向にも効果がある。
- ・WIB工法の普及については、施工業者までしっかりと対応方法が浸透しているか、効果の確認が事前にできない等の問題がある。

(2) 振動問題の事例のまとめについての意見交換(資料3-1)

- ・測定を振動レベル[dB]とするか加速度[gal]とするかの検討が必要。
- ・分析・評価するうえで、波形が必要となるので、SWGとして測定データを入手しておいた方がよい。
- ・ハンドブックは資料の(7)の内容が中心となる。  
SWGでは3成分での測定が必要であること、振動レベル[dB]でなく加速度[gal]での測定が必要であること等を啓発していく必要があるため、測定に必要な項目を追加しておいた方がよい。
- ・JISの測定法の場合、振動レベル[dB]となってしまうため、学会で推奨する測定法を追加する。
- ・地盤に関しては、N値に加えて地盤の固有振動数があった方がよい。  
(加速度計を地盤に設置して測定。硬い地盤16Hz程度、軟弱地盤4Hz程度)
- ・事前に振動源がわかるようなら地盤レベルでの測定を行うことで、対策を検討できる。

(3) 騒音・振動・地盤による裁判事例について(資料3-2)

- ・各委員より意見をもらうこととなった。

(4) 「平成20年度振動評価手法及び規制手法等検討調査業務 報告書」について(資料3-4)

- ・環境省から(社)日本騒音制御工学会への委託で平成20年度が最終年度。
- ・5.1の要素をできる限り資料3-1に反映する。
- ・測定法のマニュアルを各委員に送付。

(5) 合意形成についての意見交換(資料3-3)

- ・資料は振動測定報告書等に掲載されている一般的な振動に関する基準値。
- ・振動による問題は、振動自体のものと、振動によって耐震性・耐久性の低下を心配されるものがある。

- ・振動と地震については、
  - ①全く違うものだということの説明
  - ②振動は地震と比較にならない程小さいものなので、耐震性・耐久性の低下に関して問題ないこととの説明。
- が重要となってくる。
- ・振動と地震については別のものだということを説明するアプローチ方法の作成が必要。

(6) 環境振動対策事例検討SWGの2010年度活動計画案について（資料3-5）

- ・各委員より了承された。

(7) 今後の進め方

振動問題の事例のまとめ

- ① SWGでの検討内容を反映させて修正
- ② 修正したフォームにて振動事例を作成

合意形成事例のまとめ

- ① 各委員より 11/17 までに事例を担当委員に送付
- ② 担当委員より (5) の振動と地震の違いについてのアプローチ方法についての資料を 11/24 のハンドブック小委員会に提出。

(8) 次回開催について

- ・ 日時：2010年1月29日（金） 16：00～18：00
- ・ 場所：建築会館会議室

以 上